

IAQGモスクワ会議について

1. はじめに

IAQGモスクワ会議が、2013年5月20日～23日に開催された。IAQG会議は、年2回（春、秋）開催され、昨年10月開催のIAQG名古屋会議に引き続き今回は通算33回目にあたる。以下に今回の会議について紹介する。

2. 会議概要

航空宇宙品質マネジメントシステム規格（9100:2009版）の移行が完了し、各関連機関（認定機関、認証機関等）は昨年IAQGが改正した9104-1規格（航空、宇宙及び防衛分野の品質マネジメントシステム認証プログラムに対する要求事項）への移行を進めている。（移行期限：2013年6月末）

今回のIAQGモスクワ会議は、9104-1移行状況確認や移行時の課題検討、まもなく発行される予定の9101E規格（航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する審査要求事項）の最終確認や移行に伴う課題検討などが中心的なテーマとなった他、規格要求、製品及びサプライチェーン改善、要員能力及び各分野の関係強化等の分科会（詳細後述）が行われた。2016年改正予定の9100規格に関しては、改正の詳細スケジュール、9100認証取得組織やステークホルダーからのフィードバックコメント収集計画などが協議された。

我が国は9101規格サブチームのIAQGリーダーを務めるなど、規格の検討に積極的に参画し、また、上記9104-1移行関連協議などに積極的に関与し、我が国の意見をIAQGに反映することが出来たと考える。

3. 各論

以下に今回の会議における評議会、並びに

主要な分科会等の内容を紹介する。

(1) 評議会（Council）

今回の評議会では、エグゼクティブ・コミッティ会議報告、セクター・レポート、会計報告、戦略検討ワーキンググループ会議報告、各分科会活動の進捗報告や活動に伴う議決案件の審議が行われた。

特別なトピックスとして「安全マネジメントシステム（SMS）及び設計組織」が紹介された。これは、設計組織におけるSMS導入について、FAAの取り組みを中心とした活動紹介で、今後、Flight Safetyを向上させるため、設計組織を承認するというSMSの適用を考えるとの内容であった。

また、Nadcapに関するPRIの近況報告がされ、認証組織数の状況、3月に東京でも実施された各地でのシンポジウム開催等の実績について紹介があった。

航空当局との関係強化戦略については、引き続き各セクターレベルで活動を継続し、必要に応じ戦略検討ワーキンググループ、評議会でも報告していくこと等が報告された。

セクター・レポートにおいては、寺境弘之アジア太平洋セクターリーダー（MHI航空機・宇宙品質保証部長）より、当セクターの最新の活動状況、JAQGの活動状況を報告した。この中で、前回のIAQG名古屋会議で報告した「強固な品質マネジメントシステムの確立に向けたJAQGの取組」の進捗状況として、4つのガイダンス文書を今年8月に国内発行予定であることを報告した。

議決案件については下記の6件が上程され、全て承認された。



全体の様子



審議の様子（投票メンバー席）

評議会の様子

- IAQG 名古屋会議議事録
- 2012年IAQG収支決算報告
- IAQG 法人化の条件付きでの推進
- SCMH ガイダンスマテリアルの取り扱いに関する IAQG Procedure118 の改正
- サプライチェーン リスクマネジメントガイドライン（9134 規格）の廃止
- APQP/PPAP（先行製品品質計画/生産部品承認プロセス）の共通要求/規格の制定化

(2) エグゼクティブ・コミッティ（Executive Committee）

エグゼクティブ・コミッティ会議は、IAQG 会長、各セクターリーダー、財務責任者等から構成され、IAQGの組織運営に関連する重要事項を討議し、その結果が必要に応じ評議会に上程される。今回のエグゼクティブ・コミッティ会議では、IAQGの財務状況、IAQG 法人化検討状況、本年秋に開催予定のIAQG モントリオール会議運営等につき協議された。IAQGの財務状況については2012年度の収支結果と2013年度予算案および5年先までの採算見通しが議論された。議論の結果は評

議会承認を受けた。IAQG法人化については、今回の評議会で進め方の合意が得られ、各セクター内のIAQGメンバー全社に最終確認の上で法人化の手続きに入る予定である。

(3) 戦略検討ワーキンググループ（Strategy Working Group）

戦略検討ワーキンググループは、各セクターリーダー、分科会のリーダー等から構成され、下位の組織の活動を統括するとともに、IAQGの上位戦略を検討しその成果を評議会に上程する機能を持っている。

会議では、1月の対面会議で決めた各分科会等の本年度の活動状況レビューを実施し、今後の戦略、活動を続ける上での課題・懸案事項について議論した。（各分科会等の活動状況については個々の項目を参照されたい）

(4) 規格要求分科会（Requirements）

本分科会では、9100規格（国内ではJIS Q 9100規格）をはじめ、製品とプロセスの整合性・完全性を改善していくための品質要求事項やガイダンス文書を作成・維持している。今回の会議では、後述する9100規格及び9101

規格の改正作業の状況が報告された他、IAQGが作成・維持するすべての規格について、改正検討作業状況が報告された。日本からは、9100規格の改正に関わるアジア太平洋セクターでの活動状況を報告したほか、国内規格の作成・維持状況としてSJAC 9103（キー特性管理）を改正したことや、SJAC 9110（整備組織向けQMS要求事項）の改正作業を進めていること等を報告した。

主な規格改正作業の実施状況を以下に紹介する。

①9100規格次期改正については、9100規格改正の詳細スケジュール、9100シリーズ規格（9110、9120及び9115等）の統合スケジュール、IAQGウェブサーベイの中間結果とステークホルダーを含むフィードバックコメント収集計画、及びISO 9001次期改正最新動向を踏まえた今後のチーム活動等について協議された。今回の協議結果、すべてのフィードバックコメントの期限は2013年7月31日とすること、及び9100チーム内の次期改正第1次原案はISO 9001 DISをベースに作成することが決定された。次回のIAQGモニターオール会議では、コメントレビュー／処置と9100要求事項として取り入れる新規コンセプト（要求事項）に対するサブチーム活動展開等について協議される予定である。

②9101規格については、リーダーのMHI 河本正博氏により進行された。なお、今回は都合により米国メンバーはシカゴに集まり、モスクワとシカゴの2元会議となった。1月に行われた再Ballot結果について3月の対面会議結果を踏まえ、再Ballotド

ラフトに対する技術的変更の必要性はないことをチームとして最終確認した。今後の改正版規格発行に伴い見直しが必要となる、展開支援文書類（プレスリリース、改正概要及びFAQ）について素案を作成し、OASIS上の変更事項及び移行に対するチームとしての提案事項について協議した。今後、米国での規格制定ルールに伴い必要となる確認Ballot終了後に各国で規格改正が開始される予定である。

(5) 製品及びサプライチェーン改善分科会
(Product and Supply Chain Improvement)

今回の分科会では、現在開発中のSCMH資料（プロセスマッピング、航空宇宙版APQP/PPAP（先行製品品質計画／生産部品承認プロセス）等）の進捗状況確認を実施した他、9100次期改正への対応方針、SCMH新規プロジェクト選定／立上げの基本方針、SCMH Webinar（＝オンラインセミナー）の試行、フィードバックの改善、SCMHとARP（Aerospace Recommended Practice）等業界推奨事例、IAQGが開発する国際規格との関連性等について検討・協議を実施した。SCMHの構成についても協議し、現在は11章構成であるが、今後新9100に合わせた構成にしていくことを検討継続していくこととした。なお、APQP/PPAPについては規格化推進が正式に承認された。

なお、既に完成しているSCMH資料についてはIAQGウェブ（<http://www.sae.org/iaqg/>）にて一般公開中。

(6) 要員能力分科会（People Capability）

航空宇宙分野の事故・不適合の要因は、技術の進歩に伴い機械要因が減少し、人的要因が大勢を占めるようになった。航空機事故は

直ちに人命損失につながり、また今後増々航空機需要が増えてくる状況を考えると、要員能力の確保・向上に関わる活動は重要である。本分科会では、「ヒューマンファクター」と「力量管理」の2分野を対象に活動している。

①ヒューマンファクター

本分科会では、ヒューマンファクターの背景、要因、主要手法、航空当局要求などを含んだガイダンス文書を作成し、だれでも無料で利用できるようIAQGウェブサイトへの公開を計画している。今回の会議では、ガイダンス文書案のレビューを行い、資料として完成度を高めた。数か月以内にIAQGウェブサイトへ公開される見込みである。

②力量管理

JIS Q 9100の6.2項「人的資源」では、「組織は、要員に必要な力量を明確にする」とされているが、その基準までは示されておらず、各社（組織）が必要な力量を独自に定義している。本分科会では、世界的に共通した“BoK”（Body of Knowledge、必要とされる知識体系）を構築し、ガイダンス資料としてだれでも無料で利用できるよう、IAQGウェブサイトへの公開を計画している。今回の会議では、組織がBoKを利用する際の手引き資料案を作成した。BoK自体は、BoK作成仕様書が今年10月のIAQGモントリオール会議にて承認され次第、BoK作成専門会社（BoK developer）により作成が正式に開始される予定である。

(7) パフォーマンス分科会（Performance Team）

本分科会はIAQG改善戦略分科会の一つであり、航空・宇宙、防衛産業業界のパフォー

マンスとしてIAQG会員会社各サプライヤーの「納期遵守率」、「流出不適合発生率」を指標として評価することを目的として活動を開始し、2010年よりパイロットケースとしてIAQG会員会社有志の協力でデータの収集・分析を実施している。

今回の会議では2012年の中間報告ならびに2010年データとの比較について報告があった。2012年データ収集では現在までに12社から170あまりのサプライヤーデータが提供され、業界全体で見た納期遵守率、流出不適合発生率の平均はそれぞれ88%ならびに2,200ppmであることが報告された。ちなみに、2010年はサプライヤー200社のデータを収集し、納期遵守率、流出不適合発生率の平均値がそれぞれ80%、4,300ppmであり、これらを比較すると集計途中ではあるが、いずれも前回より改善する傾向が見て取れる。

今後さらにデータ収集を行うとともに、他業界とのベンチマークを行い、2013年10月のモントリオール会議で最終報告が行われる予定である。

(8) 防衛当局との関係強化分科会（Defense Relationship）

IAQGは防衛当局との関係構築を通じて、IAQGが制定している9100関連規格およびその第三者認証制度を防衛当局に認知・受容して貰うこと等を目標としており、本分科会が防衛当局（欧州の防衛当局（NATO）や米国防総省、防衛省等）と協働可能な具体的なテーマについて協議を行っている。

今回の分科会では、NATOにおいて9100 2009年度版規格を基にNATOの追加要求を織り込んだNATO規格文書 AQAP-2310 を2013年4月に発行したこと、並びに日本においても2013年4月より品質管理等要求仕様書をDSP Z 9008へ一本化したことが報告された。

(9) 国際スペースフォーラム (International Space Forum)

スペースフォーラムは、9100規格の宇宙品質要求への取り込みと業界への展開を目的とし、2003年より発足し、各国の主要宇宙機メーカーに加え、ステークホルダーである各宇宙機関 (NASA、ESA、JAXA) もメンバーとして積極的に対応しており、情報交換の場に留まらず業界側からの要望として規格の変更提案等を活発に行っている。

今回の会議では、特にスペースフォーラムからの9100規格改正に関する提案を重点的に協議した。

具体的には、現時点でSFメンバーから収集しているコメント全28点を個々にレビューして、次の事項を9100チームへ追加提案することとした。

- ・模倣品の防止
- ・製造工程の変更や不適合に関する情報を事前に客先と共有すること
- ・製造工程の変更に関する記録 等

また、9100チームへのコメント提出期限が7/31に延期されたことにあわせ、各セクターからも追加コメントを募集し、再度レビューを実施する予定である。

その他特記事項としては、懸案事項となっていた防衛当局関係強化分科会との協働について、ステークホルダーが異なるためメリットは少なく、現時点での協働は推進しないと結論付けた。

なお、今回は規格改正に関する事項を重点的に協議したため、他の重要トピックス (SF戦略、SWOT分析) についての議論は次回へ持ち越すこととしたが、IAQGスペースフォーラムとしては、今後もセクターを代表してIAQG活動へ参画し、国内業界へのフィードバック及びさらなる活動活性化を推進していく予定である。

(10) 国際航空宇宙認証制度管理チーム (Other Party Management Team (OPMT))

OPMTは、9100認証制度の運用に必要な規格の作成、9100関連認証制度の検討・(各セクター間の) 相互監視等を行っており、9100認証制度運用において重要な役割を担っている。今回の主要議題としては、本年6月末までを期限としている9104-1に基づく認証制度への移行状況報告とそれに伴う課題の他、セクター投票が終了し、まもなく発行される予定の9101E規格の適用に伴う移行の取扱いや今後のIAQG承認研修コースの更新計画等について議論された。

9104-1への移行状況については各セクターともほぼ計画通りに進捗しており、日本からも国内におけるすべての関係機関の移行が移行期限前までに完了する予定であることを報告した。9104-1への移行に伴う課題については、昨年10月のIAQG名古屋会議後に追加された9104-1のレゾリュション (要求事項を明確にする補足規定) について、いくつかの意図が不明確な項目について審議した結果、レゾリュションの解釈について明確にすることができた。

また、今回のIAQGモスクワ会議に先立ち、欧州セクター (EAQG OPMT) に対する他セクターによるオーバーサイト (監査) が2日間に渡り独国ベルリン市で開催された。今回は、アジアパシフィックセクター (JRMCC) がオーバーサイトチームリーダーを務め、米国セクター (AAQG-RMC) と共に実施した。結果として数件の軽微な不適合と改善事項が指摘され、是正処置の実施と改善事項の検討が要求された。

4. おわりに

以上、IAQGモスクワ会議につき内容を紹介した。

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格(9100規格)をはじめとする関連規格の制定に加え、“On Time, On-Quality Delivery (OTOQD)”を効率的に達成することを目標に活動を展開している。また、IAQGは航空当局、防衛当局及び宇宙機関等のステークホルダーとの関係構築を通じて、IAQGが制定している9100関連規格およびその第三者認証制度をステークホルダーに認知・受容して貰うことも重要な目標となっている。

日本では、防衛省が9100規格(JIS Q 9100)を採用しており、JAXAでも採用の方向で検

討している。航空当局については、目標達成にはまだ課題が多い状況であるが、今後も航空当局と粘り強く話し合いを継続し、関係構築を緊密にすることで進展を図る所存である。

JAQGの独自活動である「強固な品質マネジメントシステムの検討」については、ガイダンス文書など具体的な進捗を本会議で報告した。引き続き活動を継続する所存である。

JAQG活動に関し今後も、関係各位からのご指導・ご鞭撻をお願いしたい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 菅野 義就〕